

【専門科目領域/専門科目群/看護の展開/小児看護学】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
小児看護援助論 I		必修	2	2	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
東福寺 愛実 他	401	narumi.tofukuji	授業終了後に受付		
授業の目的・概要	子どもとその家族に向けた適切な看護援助の在り方について、具体的理解を踏まえた基礎的な実践能力を修得することを目的とする。小児期にある子どもの日常生活の援助及び健康を障害された子どもの看護支援をする基本的知識について遠隔授業や演習形式での対面式授業により講義する。それにより、疾病が与える子どもとその家族の身体的・精神的・社会的及び成長発達への影響、家族への影響について理解できるようになる。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・イベント <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	この授業では、小児看護学概論で学んだ子どもの成長発達上の特徴や小児看護の基本となる理念等の知識が必要となるため、小児看護学概論で学んだ内容を復習しておくことが望ましい。				
教科書	・系統看護学講座 小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 /著:奈良間美保 他 /医学書院 /2022 ・系統看護学講座 小児看護学2 小児臨床看護各論 /著:奈良間美保 他 /医学書院 /2022 [2冊指定]				
参考書	・ナーシンググラフィカ 小児看護学1 小児の発達と看護 /著:中野綾美 /メディカ出版 /2023 ・ナーシンググラフィカ 小児看護学2 小児看護技術 /著:中野綾美 /メディカ出版 /2023 ・根拠と事故防止からみた小児看護技術 (第3版) /著:浅野みどり /医学書院 /2020 ・発達段階からみた小児看護過程 (第3版) /著:浅野みどり /医学書院 /2021 ・写真でわかる 小児看護技術 (第3版) /著:山元 恵子 /インターメディカ /2022				
外部教材	公益社団法人 日本看護協会 動画ポータル				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	健康状態、発達段階に合わせた日常生活援助技術が実施できる。	NS(1)(3)			
②	健康状態を判断するアセスメント技術について小児の特徴をふまえた説明ができる。	NS(3)(4)			
③	急性期・周手術期にある子どもと家族への看護について説明できる。	NS(3)(4)			
④	在宅・慢性期にある子どもと家族への看護について説明できる。	NS(2)(3)			
⑤	障害のある子どもと家族への看護について説明できる。	NS(2)(3)(4)			
⑥	安全を踏まえ子どもが安心して治療やケアを受けるための技術が実施できる。	NS(5)			
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間(時間)		
1・2	オリエンテーション 子どもの日常生活援助と病院で関わる子どもへのプレパレーションやデストラクションについて学習する。	講義	小児看護で使用する言葉の定義を、教科書で確認する。	2	
3・4	子どもの病気認知と子どもに行われるフィジカルアセスメントについて学習する。	講義	フィジカルアセスメントについて、教科書等で調べる。	2	
5・6	子どもの清潔ケアに関連するアセスメントの実践について学習する。	講義	基礎で学んだ清潔ケアについて、再度復習しておく。	2	
7~10	発熱が身体に及ぼす影響について学習する。 (脱水・小児感染症・隔離・熱性けいれんとてんかんの違い・点滴薬剤の準備と滴下計算)	講義	学習した疾患については、教科書等で調べ、ノートにまとめる。	3	
11・12	呼吸器疾患児の把握とその対応について学習する。 (喘息・肺炎・クループ)	講義	呼吸器の解剖整理について復習をしておく。また、疾患については復習をしておく。	3	
13・14	障がい児をもつ子どもと家族との関わりについて学習する。(重心児)	講義	学習した疾患については調べて、ノートにまとめる。	2	
15・16	NICU に入院する子どもと家族について学習する。	講義	学習した疾患については調べて、ノートにまとめる。	2	

【専門科目領域/専門科目群/看護の展開/小児看護学】

17・18	抑制や固定が必要な子どもへの援助について学習する。(骨折・先天性股関節脱臼)	講義	抑制の必要性について調べる。	2			
19・20	子どもへの声かけの仕方と点滴刺入部のシーネ固定法	講義・GW	学習した疾患については調べて、ノートにまとめる。	2			
21・22	慢性的な疾患をもつ子どもの再発や悪化を防ぐ治療管理と在宅看護の援助について学習する。(ネフローゼ・急性糸球体腎炎・1型糖尿病)	講義	学習した疾患については調べて、ノートにまとめる。	2			
23・24	子どもの内服について学習する。	講義・演習	演習で実施したことを振り返り、練習しておく。	2			
25・26	手術を受ける子どもの痛みについて学習する。(口唇口蓋裂・先天性心疾患・痛み・プレパレーションの実践)	講義	学習した疾患については、教科書等で調べ、ノートにまとめる。	3			
27・28	小児科外来の実践について学習する。(不慮の事故・誤飲・誤嚥・熱傷)	講義	配布資料等を復習する。	2			
29・30	小児領域の看護展開について学習する。	講義・演習	提示された課題について調べ、ノートにまとめる。	2			
試	定期試験：達成度評価、評価のポイント参照						
達成度評価							
総合評価割合(%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		80	15	0	0	5	100
総合力指標	知識・技術力	60	0	0	0	0	60
	思考・推論・創造する力	20	0	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	5
	発表・表現伝達する力	0	10	0	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	5	5
	問題を発見・解決する力	0	5	0	0	0	5
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法及び注意点					
試験	①	✓	小児の看護援助の実践について、キーワードを駆使し、説明・記述ができる。知識60%、思考・推論・創造する力20%とする。定期試験期間に試験を実施する。				テスト終了後に、定期試験で出題した問題の解説を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
レポート	①	✓	小児の看護援助技術を演習し、小児看護に必要なことや自身の工夫したことを説明・記述ができる。また記述することで、自身の課題を明確にすることができる。知識・技術力を5%、発表・表現伝達する力を10%、問題を発見・解決する力を5%とする。				定期試験前の授業時に、添削し返却する。
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤						
	⑥	✓					
その他	①	✓	全体を通して、取組みの姿勢・意欲を5%とする。				授業中に調和が取れていない時は指導を行い、授業が円滑に行えないことを指摘する。
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥	✓					

【専門科目領域/専門科目群/看護の展開/小児看護学】

備 考	
他 担 当 教 員	なし
教 員 の 実 務 経 験	担当する看護教員は、看護師として実務経験が5年以上有したものが担当する。
実 践 的 授 業 の 内 容	この科目は、担当教員が臨床看護実践で得た経験をもとに、小児看護援助において基本的な知識および小児看護技術を必要とする疾患をもった患児とその家族の事例紹介を交えて授業を進める。これらの事例を組み入れることで実際の小児看護の現場に必要な看護実践の知識を技術の修得を目指し、小児看護援助論Ⅱおよび小児看護学実習につなげる。
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況により、学習内容の順番が変更になる場合がある。そのときは、紙面で説明をする。 ・今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラパスの変更の可能性がある。